

# 武漢大学留学レポート

医学部 4年 峯積拓巳

2月17日から3月24日の約一ヶ月間、中国の武漢大学で勉強させていただいた。個人的に一ヶ月の海外滞在は初めての経験であり、しかも海外で医学を勉強するというとても有意義なものであった。このレポートでは一ヶ月間で学んだこと、経験したことを紹介したいと思う。

#### #武漢市について

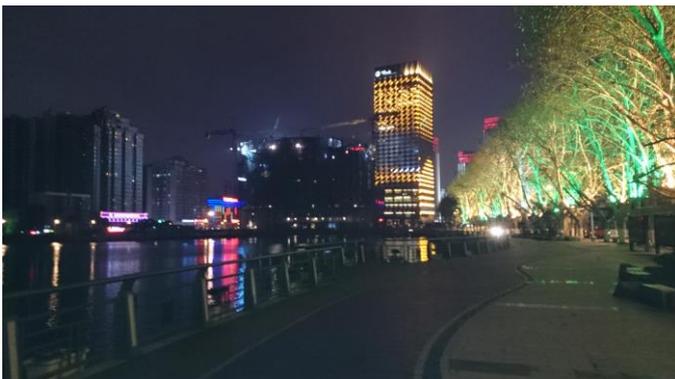
武漢市は中国で4番目に大きな都市である。市内には至る所で大きな建設中の建物が見受けられた。聞いた話によると約5000件の工事が一度に行われているらしい。また、道路には、多くの車やバイクが行き交い、クラクションの音を聞かない日は無かった。また、横断歩道も無く、明らかに自動車優先感が漂い、道を渡るには多少の勇気が必要であった。しかし、慣れてくると車がスピードを落とすタイミングが分かったような気がした。また、歩道を平気でバイクが駆け抜け、道路を逆走するバイクも何度か見かけた。交通状況は明らかに日本と比べ悪いが慣れてみると案外こんなものかと思ってしまう。

しかし、いいところもある。バスがとてつもなく安い。2元前払いでどこまでも行けるし本数も多い。ちなみに1元は16円くらいである。福島のバス代を現地の人に話したら信じられないという顔をしていた。

多くの人が住み、多くの車が行き交い、5000~10000件もの工事を行う武漢市は想像に易く大気汚染が深刻だ。明らかに大気が曇っている。少し離れた建物を見れば霞み、夜はスポットライトの光の線がはっきり見える。乾燥もなかなかのものであり、マスクを付けないで一日中歩いた日は喉に違和感を覚えた。

市内には最先端のビルが多く建ち、7つ星のホテルやデザインに凝ったビルなどはとてもきれいであった。こちらの高いビルはイルミネーションに手をかけたものが多く。とても明るく色鮮やかで繁華街はとても華やかである。大気汚染のせいなのか、ビルが明るいせいなのか湖が近いせいなのか分からないが、夜空に多くの星が見られる日はほとんど無かったがイルミネーションはとてもきれいだった。

武漢市は発展途上の装いを示し、古い建物と新しい建物の差、繁華街とその他の場所の差が著しく、物価も繁華街と庶民の市場とでは大きく異なった。中国第4位都市の急速に発展しているようすがうかがえた。



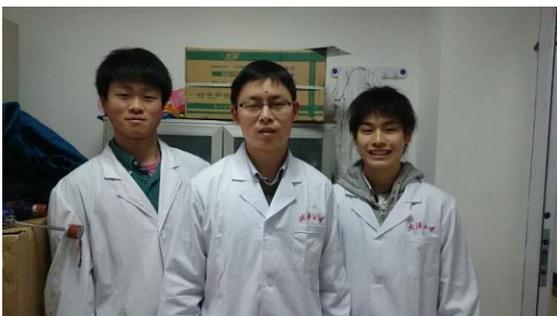
左の写真は武漢大学医学部付近の水果湖周辺のもの。奥に見えるビルは7つ星ホテルで手前に建設中のウォーターシアターが見える。この日は奇跡的に空気がきれいだったような。

## # 武漢での勉強

### 武漢大学での勉強について

福島医大での基礎上級として留学させてもらっているということで、武漢大学では解剖学講座に配属になった。特に解剖学講座の戴(ダイ)先生のもとで勉強させていただくことになった。戴先生は日本に留学していたこともあり、日本語がかなり上手い。

この講座では、私たちの学びたいことを、ある程度自由に勉強してよいという方針である。まずは戴先生から最初に講座の案内をしてもらった。講座には二つの研究室があり、一つは神経に関する研究を、もう一つは循環器系の研究をしているということであった。循環器系の研究室は警備が厳重で気軽に入れない上に、かなり忙しいということで多くは神経系の研究室にお世話になることになった。また、講座からは一二年生の解剖の授業のスケジュールが渡された。解剖の授業に出席することを勧められた訳だが、その他、興味のある授業いずれも出席してよいとのことであった。



左の写真は研究室の長先生と撮ったもの。先生はとても優しく穏やかな人であった。

武漢大学の医学部には中国語で授業が行われる中国語クラスと、英語で授業が行われる外国人クラスがある。外国人クラスには、様々な国からの留学生がいた。私が参加したクラスで多かったのはインド系の学生だった。他にも、ヨーロッパ、アメリカ、中東、アフリカからの留学生もいくらか見られた。

解剖の講義がほとんど戴先生によるものであったので、私は全ての戴先生の講義に参加することにし、他にもいくつか興味がある講義に参加することにした。また、基礎上級ということなので一応、基礎医学の講義を中心に参加することにした。

期間中、参加した講義は解剖、生理、薬理、病理、基礎中国語、医学中国語である。解剖の講義は一回を除き、外国人クラスの一年生に混ぜてもらい、講義と実習を受けた。全ての講義に言えることだが、講義はすべて英語で行われるので、基礎医学系の復習と英語の勉強が同時にできたので、とても有意義であったと思う。解剖の講義、実習は初回のみ局所解剖学で前庭機能について、後は神経解剖学であった。神経解剖は戴先生によるものであった。授業は一コマ 45 分、間に 5 分の休憩を挟んで 2 コマ続きのものが基本である。解剖は 2 年前に勉強して以来、ほとんど勉強しておらず、良い復習になった。講義内容は日本と変わらないところも多いが、焦点を当てるポイントが少し違うところがあり、これ

も勉強になった。

他の講義についても述べると、生理学はチャネルについてと神経の刺激伝導についての講義が主、薬理は抗マラリア薬、抗菌薬、病理は糖原病に関するものであった。こちらの講義も先生によって気持ちの入りが異なり、あるクラスでは先生が開始から激怒していた。また、こちらでも学生は場合によって自主欠席をするようである。



上の写真は解剖の講義中のもの(許可を得て撮影)。講義している先生は講座の戴老師。

下の写真は薬理の講義中のもの。講義の始めには3人しか学生がいなかった。



#### # 武漢大学の学生について

武漢大学では出欠の確認がさほど厳しくなく、自主欠席をする学生も見られるようであるが、学生の勉強に対する意識は概して高い。授業では進んで前の席に座る人が多く、授業中も先生が質問調で話したときには学生のつぶやきが至る所から聞こえた。また、授業以外でも自主的に勉強をする学生も多数見受けられた。

武漢大学では卒後、留学を考えている人をよく見かける。そのためか、中でも語学に関しての自主学習は目を見張るものがあり、英語はもちろん、フランス語や日本語の勉強を

している人もいた。武漢大学はフランスの多くの病院と関係を持っているらしく、フランス留学をカリキュラムの一環とするコースもあるため、フランス語を勉強する人はなかなか多いようである。

日本語の勉強は彼らにとって趣味であることもある。多くの学生は日本のドラマやマンガ、アニメをいくらか(人によっては日本人以上に)知っており、ドラマやマンガから得た日本語を多くの人が得意げに披露してくれた。日本語や日本の文化に興味を持ってきている外国人がいるということ、それを楽しげに話してくれるということはとても嬉しいことだと感じた。

学生のうちいくらかは本気で日本への留学を考えており、日本語をしっかり勉強している人にも出会った。彼らによると中国でいい職に就くためには、博士号を取る必要があるため、大学院に行くことは必須で、海外の大学院に進学することを考えている人も多いらしい。また、日本はやはり先進国であり、設備もよく、研究レベルも高いことから、留学先にはよいようである。ただ、彼らにとって日本語はとても難しいらしいが、それを鑑みても日本は魅力的なようだ。

#### # 日常生活と観光

武漢大学の学生のほとんどは寮に住んでいるが、私たち4人は迎賓楼(インビンロウ)というホテル(らしい)に住ませてもらうことになった。先輩からこのホテルの印象は聞いていたので覚悟はできていたがなかなかのものだった。

まず、エアコンの効きが悪い。武漢の緯度は低くさほど寒くないと聞いていたが、私たちが武漢に到着したころは雪が降る程寒く、さらに内陸らしく朝晩の冷えが激しい上にかかけ布団は二枚しか無い。エアコンがあっただけまじなのだが、30℃設定で室温が30℃になることは無く、数日間、凍死覚悟で寝ていた。たぶんエアコンの30℃とは頑張って30℃の風が出るということなのであろう。次にコンセントが二つしか無い。外見では5つあったのだが、使えるのは2つだけであった。しかも、変換プラグあつての2つであったので、変換プラグを空港で買ってよかったと思った。さらにたまにお湯が出なくなる。武漢についてすぐのときであったが、夜、お湯が出なくなることがありシャワーを浴びるのに一苦労だった。出発前にホテルでwi-fiがつながると聞いていたのだが、私たちが来る前に壊れたらしい。そのため、インターネットに接続するには講座に行くか、研究室に行くか、一度wi-fiを使ったところに行くかしかなかった。

学内には3つの学生食堂があり、朝昼晩はそこで食べることが多い。嬉しいことに日本の食堂に比べて料理が安い。例えばほとんどの炒飯や麺類は6元であり、プレートに好きなおかずをのせるものでも10元を超えることはまず無い。



左の写真は私が最も感動したメニュー『チャーメン』である。ちなみにメニュー表には載っていない。味は完全に炒飯だが、パラパラしないので食べやすい。写真は卵チャーメンで5元。味付けもシンプルだが料理人の魂が感じられた。

武漢大学では日本の医学部のように部活というものは無い。しかし、武漢大学では、バドミントンやバスケットボール、卓球が人気で、多くの学生が放課後にスポーツを楽しんでいた。また、体育館とグラウンドは一般開放もされており、体育館では休日に多くの人がバドミントンをしに訪れていた。また、グラウンドでは夕方から夜にかけて、ジョギングやウォーキング、太極拳や独自の体操をしている人がある。かなり健康意識が高いことが伺えるが、マスクをしている人は一人もいなかった。

放課後や休日には先生、講座の学生、友達に様々なところに連れて行ってもらい、とても充実した一ヶ月を過ごすことができた。武漢は長い歴史を持ち、かつ急速に発展している都市であるので、様々な見所がある。留学期間中でかけた場所をいくつか紹介したいと思う。

#### ① 汎街(Hang Street)



上の写真は汎街で撮ったものである。ここは大学から徒歩 15 分程の場所にある海外ブランドショップが立ち並ぶ通りである。ここの物価は日本と変わらないか、一部日本よりも高い物も見られた。右上の写真は昨年、福島医大に留学に来た先生たちと撮ったものである。ライトアップがとてもきれいだった。

## ②光谷(optic valley)



光谷は武漢でも有数のデートスポットであるようだ。夜になるとやはりイルミネーションがきれいであるが、大気汚染でやや曇っていることが実に残念である。

広いショッピングモールに数々の店が並び、中には飲食店や洋服屋、雑貨屋、ゲームセンターやスケートリンクまである。周辺にも様々な店があり左の写真は、外国人クラスの友人がその友人や先輩や夫も誘って光谷に連れて行ってくれたときのもの。ピザ屋さんにて食べきれない程のピザと格闘した。ちなみにピザは普通に高くこの日は財布に大ダメージを受けた。

## ③湖北省博物館



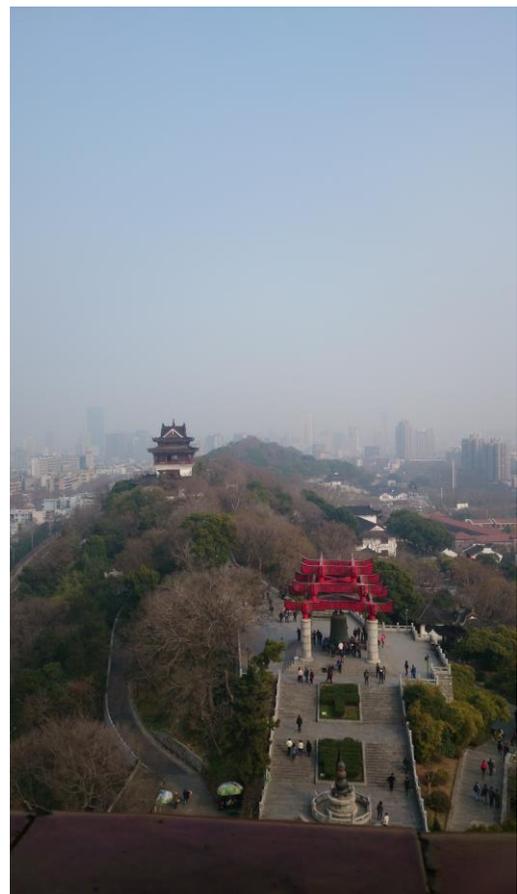
ここでは湖北省、武漢の武漢の歴史に触れられた。博物館は4つの建物からなり、一番大きい建物は4階建て。原始時代のものから展示されており中国の歴史の深さを考えさせられた。

#### ④図書館



武漢市立図書館である。見て分かるようにかなり立派で大きい。中には図書はもちろん展望台や自習室、ミュージアムもあるようで、広すぎたためミュージアムしか見られなかった。この日の大気汚染はひどかった。

#### ⑤黄鶴楼



黄鶴楼は武漢で最も有名といっても過言ではない。その歴史は 2500 年にまでのぼり、さらに小高い丘の上に建てられているため上から見る景色もなかなかのものであった。また、黄鶴楼の周りにはきれいな庭や竹林もあり、疲れた心が癒された。左の写真は門から黄鶴楼を撮ったものであり、右は黄鶴楼の最上階から撮ったものである。お気づきかもしれないが、2500 年も前からこんなに高く立派な建物があつた訳ではない。最初の黄鶴楼は一階建てで写真にある黄鶴楼は確か 6 代目だった気がする。時代を超え愛される黄鶴楼はその形を変えてもなお人々に心に訴えるものがあるのだろう。黄鶴楼はかの有名な李白の詩（黄鶴楼送孟浩然之広陵）の舞台にもなっており、私も中学生のときに読んだのでとても感慨深かった。

武漢留学中その他にもいろいろな街、由緒あるお寺や人気だと言う動物園などにも連れて行ってもらった。留学中は休日も暇することが無く本当に楽しませてもらった。

#### # 友好関係

留学中は様々な授業に参加したこともあり、多くの友人と関わる事ができた。また、日本人は珍しいのか多くの人に声をかけてもらい、とても仲良くしてもらった。一緒に出かけたり、一緒にスポーツをしたり。あるときは食事を一緒に食べ、あるときは自分たちの部屋に友人を招いたり、友人の部屋に招かれたり、数多くの思い出を作ることができた。また、こちらの生活で何か不便がないとか皆気にかけてくれたり、あるときは助けてもらったりした。本当に留学中は友人に恵まれていたと思う。



#### # まとめ

武漢での留学中、自分の知らなかった多くの事や人、考え方に会えた。中でも武漢大学の多くの学生の考え方には心を動かされた。皆、向上心が強く将来についてよく考えているのである。日本の医学生はとても恵まれており、良くも悪くも将来がそれなりに保障されている。しかし、中国では医師の地位が低く、将来が保証されている訳でもない。彼らと話していると、今は何を勉強してどうなりたいかという可能性があるかを常に考え

ている。今までに自分、特に大学入学後からの事を振り返ると、将来のために何かを得るために自ら勉強をするという事はほとんど無かった。今後、自分がどういう状況におかれても、自分の知識や経験を活かして乗り越えたり前に進んだりできるように努力をしていきたいと思った。

最後に簡単に英語でもレポートしてみたいと思う。

I studied in Wuhan University for 5 weeks as an exchange student. I could learn a lot of things and I could experience a lot. I belonged to the department of anatomy. Professor.戴, many teachers and many staff helped us. I would appreciate their continued support.

First of all professor.戴 introduced the laboratory and its members. The department of anatomy has two laboratories. One of them is laboratory of neurology and the other one is cardiovascular system. Although people of the laboratories look like very busy, I decided to let me go to the neurology one.

Second we were given class schedule of anatomy. There are two classes, Chinese class and English class. I couldn't understand in Chinese, so I attended classes in English. Farther, other Japanese friends brought the schedules for 2<sup>nd</sup> year students and 3<sup>rd</sup> year students. Professor.戴 permitted us to attend any classes we wanted to go, so I went to all the anatomy class and some other classes.

Finally the classes I attended were all of anatomy classes, anatomy practices, pharmacology, physiology, pathology, basic Chinese and medical Chinese. I found that there were some students skipping classes and there were many students in popular classes. That's the same in Japan.

I would write impressions of these classes. The class first I attended was anatomy class. Few students absented anatomy class. Most students were listening the lesson carefully and the most surprising thing is when teachers talk like asking someone many students whispering the answer immediately.

In anatomy class, only first class I attend was about audio pathway and vestibulocochlear organ by professor.宗, and the others were all about nerves system by professor.戴. In Wuhan University, we had classes 4 times in a week. We had lesson on Monday and Wednesday. And we had practice on Tuesday and Thursday. One lesson lasts 45 minutes and we rest 5 minutes and another 45 minutes lesson starts. But practice lasts 90 minutes. And

about first 40-50 minutes of the practice is lesson.

In professor.戴's class, I learned peripheral nerve system,

Although we learned these things 2years ago, I don't remember detail. And many contents were same in Japan, but some focuses are a little different. So it was very useful for me to review the anatomy in English.

Writing about other classes, I learned ion channel and transmission of nerves in physiology class. I learned antimalarial medicines and antibiotics in pharmacology class. I learned glycogenesis.

I went to neurology laboratory sometimes. We haven't learned special arts in Fukushima and investigations they doing were too difficult for us. So I couldn't help their experiment. I helped easy tasks like putting tips into the box. People there are very kind and they talked to us frequently. Professor. Fu took us swimming and Mr.伊 let us play table tennis. teacher 唐 took us to supermarket to buy something to bring back to Japan.

During staying in Wuhan I went to a lot of places, 汛街, 光谷, 湖北省博物館, 圖書館, 黃鶴樓, main campus, 古德寺, 寺, 動物園, 長江, 漢口 etc. All the places were very interesting and I could have good experience. The most I was impressed was 黃鶴樓. I was surprised at the history. The oldest tower had built before 2000 years ago and 黃鶴樓 is the place which has famous poem written by 李白. The poem 黃鶴樓送孟浩然之廣陵, we learned this when I was in junior high school. It was moving.

Many teachers and Chinese friends would take us these places. So I want to say thank you for them.

Not only going to the famous places, but also I was supported many people and friends. One day friends went some place together. One day friends invite us to their dormitories. I will never forget playing badminton, basketball, going many places, making Japanese food in their room and laughing many times with friends.

The study in Wuhan University brought brilliant things, which I would never experience in Japan. I would like to appreciate all the people I met in Wuhan. 謝謝。